



山野 千佳子 議員

Q 若年世帯増加による待機児童ゼロは可能か

A 町長

希望者全員の受入れが可能な体制を整えていただくよう、協力をお願いする。

【Q1】 トンネル無料化によって増加した世帯数と、今後予想されるミニ開発団地の予定戸数は。

【A1】 2年前の同時期と比較して約50世帯増加した。分譲住宅を目的とした開発で令和3年度3件、令和2年度2件あった。この5件を合計すると約100戸の分譲住宅用地が整備されている。そのうち、約半数がまだ未建築の状況であるため、今後50戸程度建つと思われる。



【Q2】 増加世帯によって現在の待機児童数はどうか。

【A2】 現時点で14人の待機児童があり、来年度入所に向けた調整を早めに行い、各施設での保育士の確保を依頼している。今後さらに増えた場合、既存施設の改装や増築を依頼する等を考えて対応していきたい。



▲くまの・みらい保育園

Q キッズスポーツクラブの開設は可能か

A 教育長

既存施設や事業を結びつけ、コーディネートできないか検討している。

【Q1】 コロナ禍、学力が低下している。今年度の学力テストの分析と課題は検討されたか。

【A1】 今年度の平均正答率は、全国及び広島県平均と同程度であった。今後は学力向上推進協議会等で協議検討を行い、基礎学力向上のため、授業改善や学習意欲の向上に繋がる取り組みを進める。放課後、学力補充により力をつけたい。

【Q2】 丸3年間のコロナ禍の影響は大きく、スポーツ大会開催も少なく、屋外で遊ぶ機会も減り、体力、筋力、柔軟性の低下が認められるが、その対応策は。

【A2】 体育科において授業改善を行うとともに、休憩時間を活用し、身体を動かす楽しさを目指していく。

【Q3】 屋外で遊ぶ機会が少なくなった子ども達にスポーツ少年団の前の段階の「キッズスポーツクラブ」を町内全域を対象につくってはどうか。

【A3】 既存事業をベースに年代に応じた運動メニューの充実を図るとともに、利用しやすい、参加しやすいものにも、また周知についても皆様の目に留まりやすい方法を考えながら、今後研究していく。



荒瀧 穂積 議員

Q 県道矢野安浦線バイパス事業費の負担割合は

A 建設農林部長

個別補助制度が活用され国費55%、県費45%である。

【Q1】 県道矢野安浦線バイパス延伸沿線には3か所のまとまった未開発地区が見込まれ人口3万人も実現できる。

【A1】 まず、呉地区の八幡風呂西エリアは、町道が狭く開発が進んでいない。目測で約9万坪の土地がある。課題は、直近の道土川付近が浸水地域で、前面の竹藪がレッドゾーンなど災害危険区域があること。次に、地主は熊野モールのように残地を活用した一時的利用の提案を希望している。町の方針を問う。

【A1】 県道矢野安浦線バイパスは本町の都市骨格を形成し道路ネットワークの一つとしてまちづくりの重要な路線である。また、沿線も適切な土地利用を誘導し地域の活性化を図りたい。



▲県道矢野安浦線バイパス

【Q2】 事業費負担の内訳と沿線利用に関する具体化への取り組みは。

【A2】 国の個別補助制度の活用で国費55%、県費45%である。沿線の土地利用の方向性としては、住環境をメインに交差点付近などには日常生活に必要なサービス機能の誘導を図りたい。具体的には、現在取り組み中の立地適正化計画の中で検討していく。

Q クーポン券業務の業者選定は

A 総務部長

過去3回は公募型プロポーザル方式、1回は特命随契で業者選定し、全て近畿日本ツーリストに委託している。

【Q1】 地域経済応援クーポン券業務の選定方式と結果・契約額は。また、利用状況と活性化の実態及び世帯状況は。

【A1】 クーポン券業務は、新型コロナウイルス感染症で冷え込んだ消費喚起などのため令和2年度より実施しており、今年度は原油価格などの物価高騰対策として2回実施し、合計4回実施している。業者選定は、事業者からの提案書を一定の基準で評価・選定する公募型プロポーザル方式とし、4回目は早急な対応が必要なため、特命の随意契約とした。契約額は、4回分で約4億円。利用状況は、1回目72%、2回目89%である。

活性化の実態は、各事業者へのアンケート調査で64%が売上、来店増を実感している。

世帯状況は、令和4年度11月末で1万725世帯で内訳は、一人世帯34%、二人世帯33%、三人以上世帯が33%である。

【Q2】 発券に伴うビッグデータについて、券には全て番号が振ってあり、いつ、誰が、どこかの店で千円以上利用したか分かる。消費者動向の貴重なデータである。町、商工会で分析し地域活性化に活かせないか。

【A2】 クーポン券の番号は、不正利用の防止等を目的としたもの。今回の事業では、誰がどこで何を買ったかなどの個人情報データの活用するようにはさらさら考えていない。